

平成 30 年 2 月 3 日（土）於主婦会館プラザエフ

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会  
《被爆者運動に学び合う 学習懇談会》シリーズ 9  
**「被爆者として言い残したいこと」から何を学ぶか**

八木良広  
根本雅也

**【本日の議題】**

- I 今回の学習懇談会の趣旨
- II 『被爆 70 年を生きて「被爆者として言い残したいこと」＝調査報告＝』概要
- III 意見交換

**I 今回の学習懇談会の趣旨**

今回の学習懇談会は、被爆 70 年調査から何を学ぶことができるかについて、意見交換することが目的である。この目的を設定した理由には、今回の調査の意義（\*）が関係している。

被爆 70 年調査は、被爆者団体が主体となって被爆者を対象に実施した調査である。同様の調査はこれまでも数多く実施されてきた（[資料](#)参照）が、その意義は、調査が、被爆者が被爆者について学び理解を深める（「被爆者になる」）過程となっていることにある。当然のことながら、被爆者ではない者にとっても、調査は学びの場である。調査にかかわった人たちが学び得たことは、たとえ報告書に盛り込まれなくとも、その後の活動や運動の展開、個々人の生活や人生の様々な場面に反映されてきた（と思われる）。

今回の 70 年調査では、残念ながら、調査に参加した人たち同士の学び合い、相互理解を深める機会は限られていた。そこで、本日の学習懇談会では、被爆 70 年調査の報告内容を踏まえて、みなさんと自由に議論し、相互理解をはかりたいと思う。

\*被爆者（団体）が主体となり被爆者を対象に実施した調査の目的と意義

（目的）原爆被害の実相解明、活動の実施・運動の展開、自治体や国への政策提言

新たな被爆者の掘り起こし・関係構築、団体の組織化、など

（意義）被爆者が被爆者について学び、理解を深める（「被爆者になる」）過程の存在

## Ⅱ 『被爆 70 年を生きて「被爆者として言い残したいこと」 = 調査報告 =』 概要

### 1. 調査概要

#### 1) 調査票調査の目的と内容

「被爆者として言い残したいこと」調査は、被爆者一人ひとりの声を記録として残し、次世代の人々に活かしてもらうことが目的であった。

本調査は、調査票調査と追加調査から構成されている。調査票調査では、具体的に、7つの設問を設定していた。①「あの日」の忘れられないこと、②70年間でとくにつらかったこと、③人生のなかで生きがいとなったこと、④被爆者として今とくにこころにかかっていること、⑤日本政府に言いたいこと、⑥被爆者として言い残しておきたいこと、そして⑦被爆者の会（被爆者団体）について、である。

#### 2) 調査の基本対象者

日本被団協が連絡を取ることができる全国の被爆者

#### 3) 調査票配布の方法と時期

調査票は郵送調査法(自記式)で配布した。2015年8月発行の日本被団協新聞「被団協」(439号)に同封し、同年9月末を締切日とした。

#### 4) 回収状況

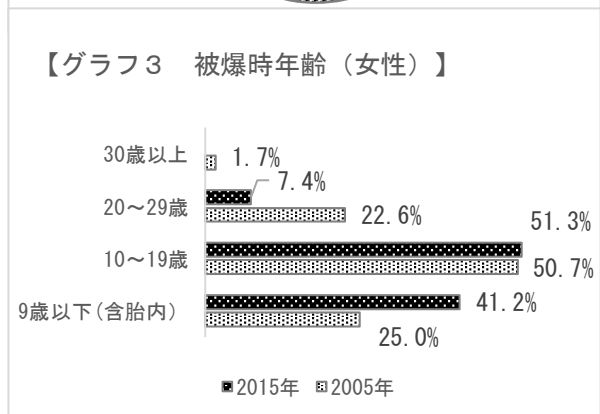
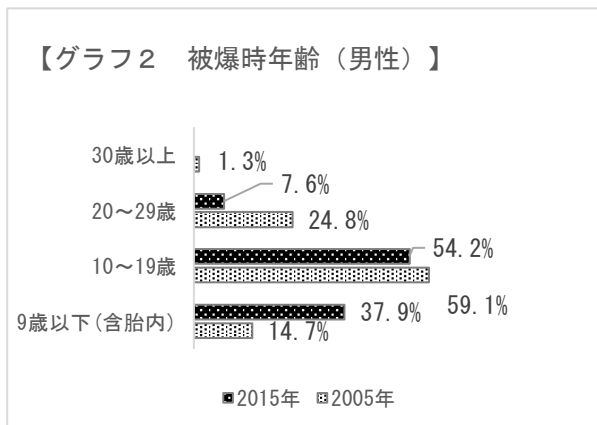
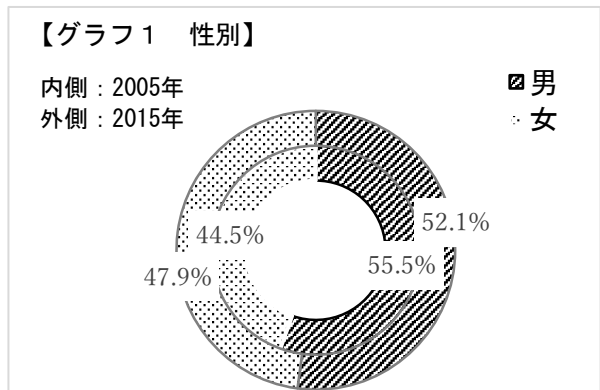
回収数は730名であり、有効回答数は重複、死亡者・被爆二世などを除いて706名であった。

### 2. 回答者集団の特徴

\*被爆60年調査「わたしの訴え」結果と適宜比較参照し、本調査との同異点も記していく。

#### 1) 性別

- ・男性 52.1%（「わたしの訴え」：55.5%）
- 女性 47.9%（44.5%）本
- ・本調査も、「わたしの訴え」調査も、ほぼ同じ傾向  
（グラフ1参照）

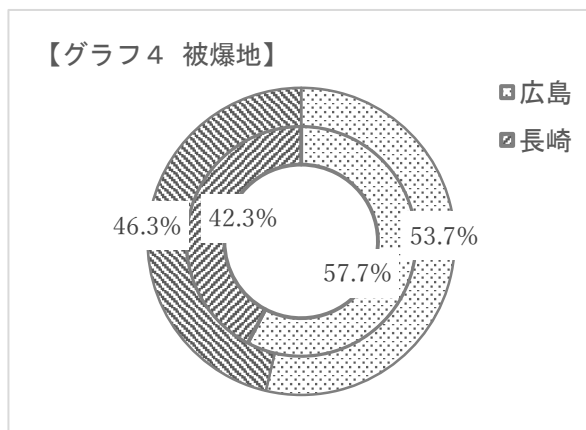


- ・10歳階級別、男女別に計算
- ・男性「10～19歳」54.2% (51.3%)、「9歳以下(含胎内)」37.9% (14.7%)、「20～29歳」7.6% (24.8%)
- ・女性「10～19歳」51.3% (50.7%)、「9歳以下(含胎内)」41.2% (25.0%)「20～29歳」7.4% (22.6%) (グラフ2、3参照)。
- ・両調査とも、最も割合が高いのは「10～19歳」。

本調査では男女共「9歳以下(含胎内)」が2番目に多く、成人前に被爆した人が回答者集団の大半を占めている。

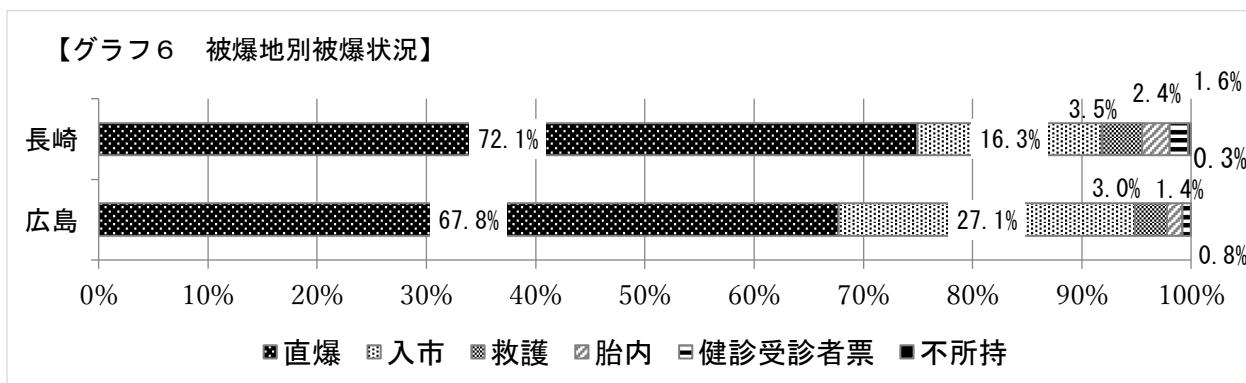
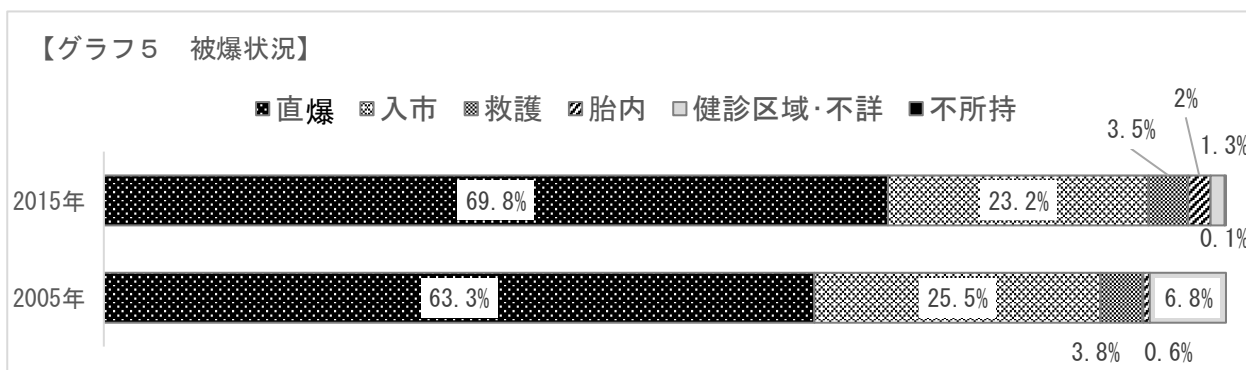
### 3) 被爆地別

- ・広島 53.7% (57.7%)、長崎 46.3% (42.3%)
- ・両調査とも、男女の構成比はほぼ同じ (グラフ4参照)

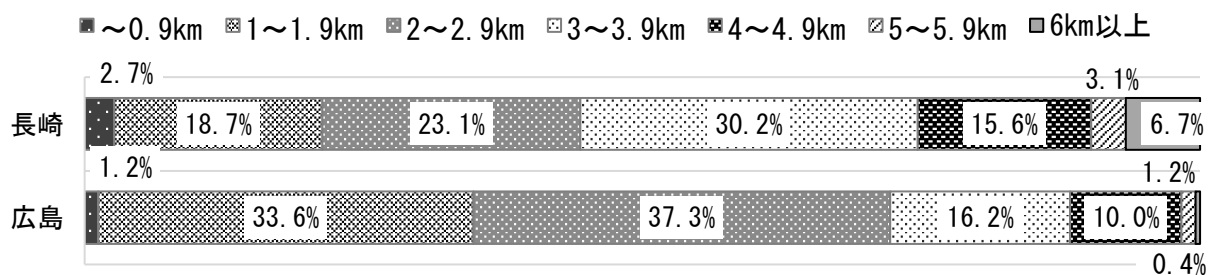


### 4) 被爆状況

- ・直爆 69.8% (63.3%)、入市 23.2% (25.5%)、救護 3.5% (3.8%)、胎内 2.0% (0.6%)、健康診断受診者証 1.3% (≡健診区域・不詳 6.8%)、不所持 0.1% (—)
- ・本調査と「わたしの訴え」の構成比は、ほぼ同じ (グラフ5参照)。
- ・被爆地別：直爆は長崎の方が割合が高く、入市は広島の方が多い (グラフ6参照)。  
 (「直爆」の) 爆心地からの距離は、広島の場合は、7割強が 2.9 km までの範囲に収まるのに対し、長崎は、近距離から遠距離までそれぞれ一定の割合がある。



【グラフ7 爆心地からの距離】

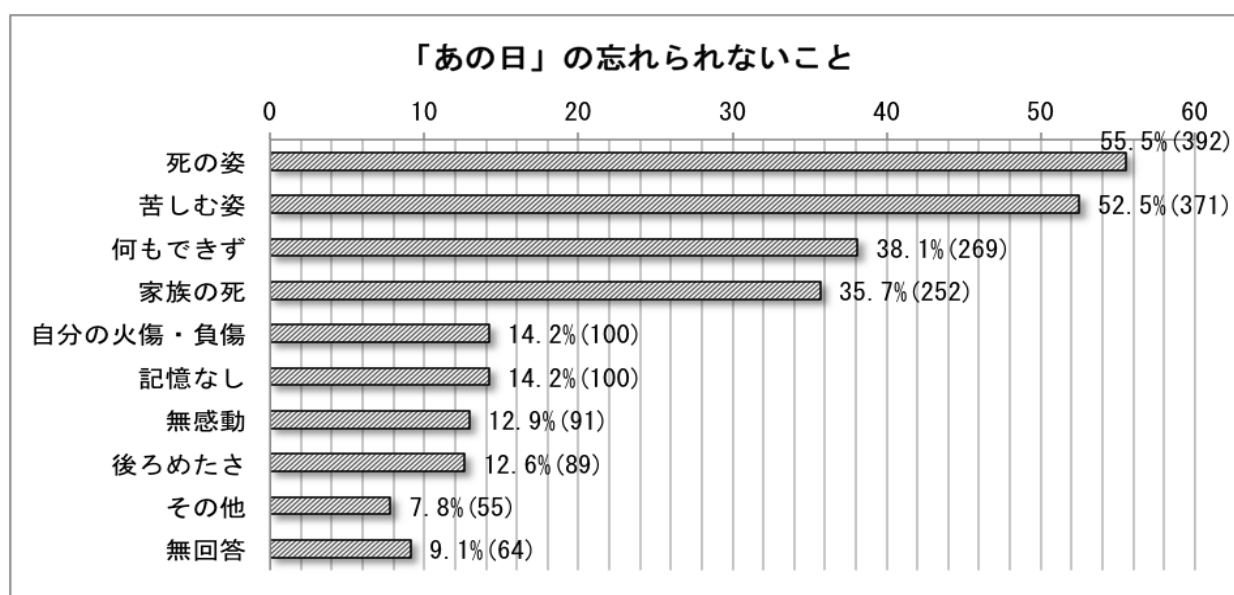


### 3. 各設問の回答の大まかな特徴

(1) 「あの日」やその直後のことで、70年経っても忘れられないこと、恐ろしく思っていること、心残りなことはどんなことですか？

【回答から読み取れること】

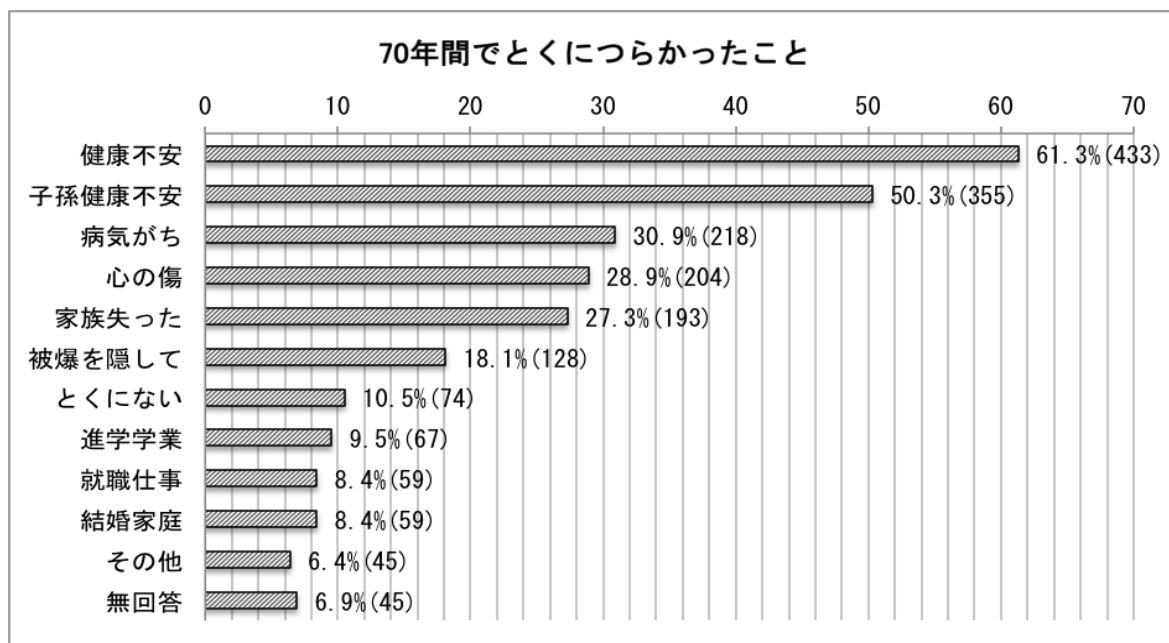
- ・70年の月日が経過しても、被爆者から「あの日」は消えないということ
- ・人間の「死の姿」「苦しむ姿」の描写の多さ→「何もできず」・「後ろめたさ」という心情
- ・1割強が「あの日」の「記憶なし」であること



(2) 70年間被爆者として生きてきて、とくにつらかったのはどんなことでしたか？

【回答から読み取れること】

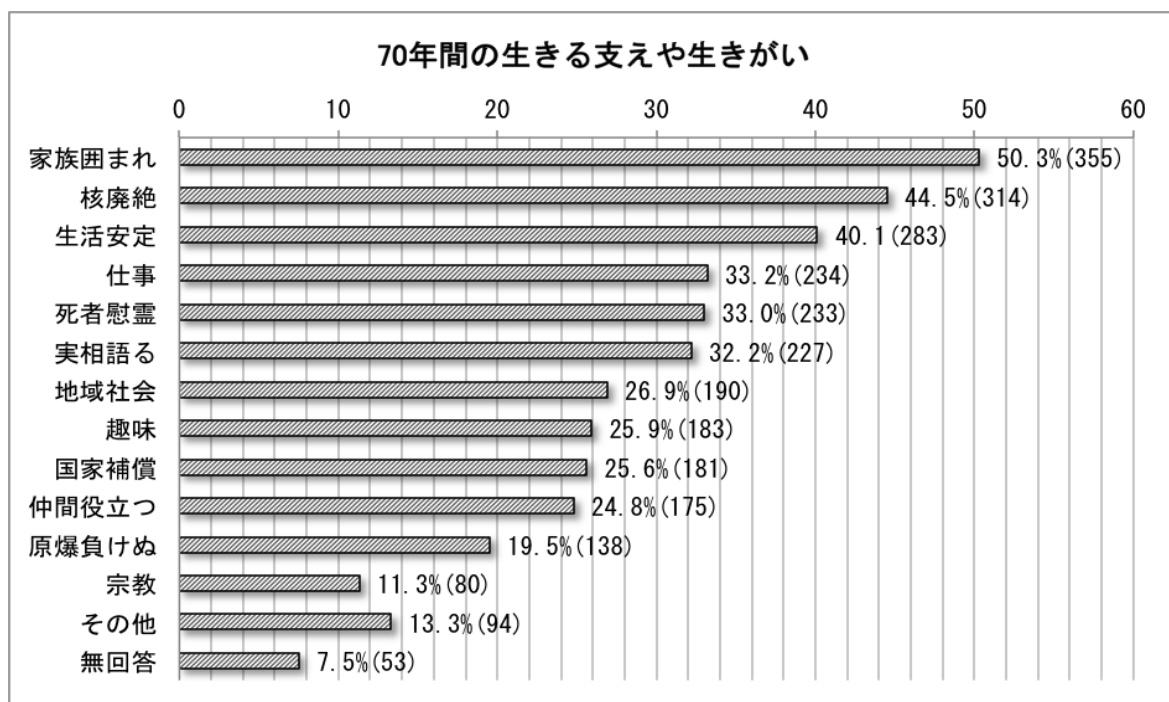
- ・自分自身や子供・孫に対する身体的な影響とそれに対する不安
- ・原爆により家族を失い、生活が一変したこと
- ・「心の傷」：苦しむ人々に何もできなかつたこと、自分だけ生き残ってしまったことに対する後悔、自責の念 [(1)の回答との関連]
- ・結婚、就職等での差別や周囲の無理解



(3) この70年間、あなたの生きる支えや生きがいとなってきたのはどんなことですか？

【回答から読み取れること】

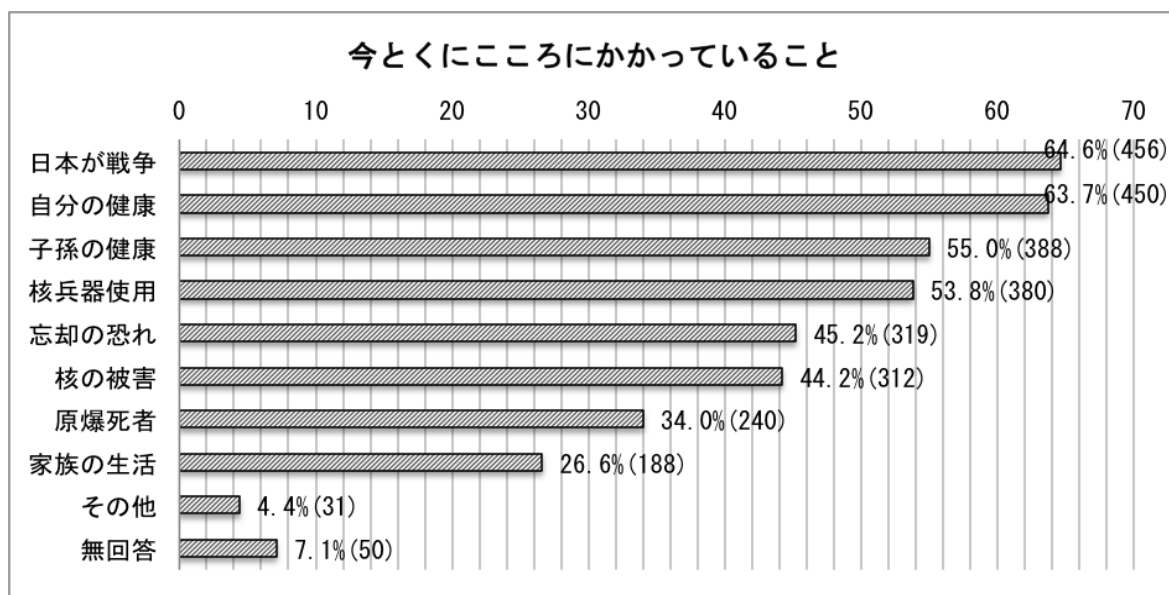
- ・「生きる支え」「生きがい」となっていること
  - ：(半数以上)「家族(に)囲まれ」た生活、(4割以上)「生活安定」・「仕事」
  - …「平凡」「普通」な人生・生活のなかで望まれること
  - ：(1/3以上)「核廃絶」「実相語る」
  - …被爆者運動の最大の要求課題
- ・被爆者に「生きる支え」「生きがい」を問うことの問題性



(4) 被爆者として、今とくに心にかかっていることはどんなことですか？

【回答から読み取れること】

- ・「日本がまた戦争する国になるのではないか」と多くの方が危惧していること  
[調査実施時期の状況（安全保障法案が議論され制定されたこと）の影響]
- ・広島・長崎の「忘却の恐れ」
- ・「核兵器使用」の可能性
- ・原発などの「核の被害」への懸念
- ・「子や孫の健康」に対する不安 > 「自分の健康」に関する不安

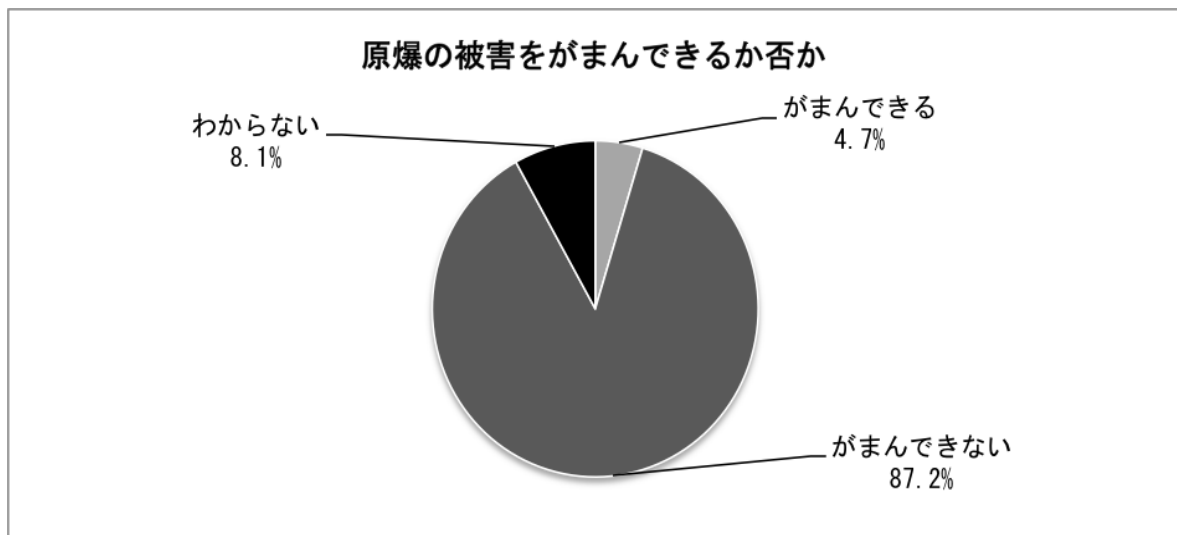


(5) 今、被爆者として日本政府に対して言いたいことについてお聞きします。

- 1) 日本政府は原爆を含む戦争被害について、一般国民はがまん（受忍）すべきだと言ってきました。あなたは原爆の被害をがまんできますか？

【回答から読み取れること】

- ・圧倒的多数（回答者のほぼ9割）が「がまんできない」と回答。
  - ：受忍することは「国が起こした戦争を認めることになる」、「また戦争が始まる」
  - ：原爆体験そのもの（地獄の惨状、非業の死、苦しみの姿、心にうけた傷、被爆者である苦しみ等々）の重さ
- ・「がまんできる」「わからない」選択の回答に垣間見える複雑な思い



2) 再び被爆者をつくらないために、今、日本政府に求めたいことは何ですか？

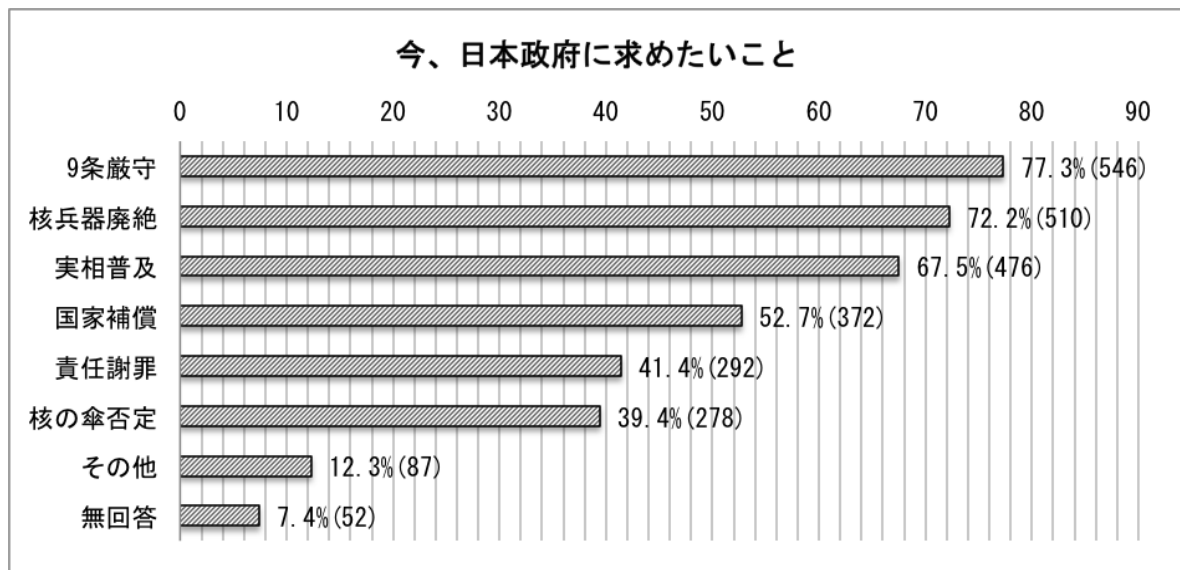
【回答から読み取れること】

- ・ (3/4以上) 「9条を厳守し、戦争によらない国づくり」

[参照：60年調査「わたしの訴え」]

実相普及 68.1% → 核兵器廃絶 68.0% → 国家補償 65.4% → 憲法9条守る 64.5% …

- ・ 憲法9条の厳守を求めると、国家補償を求めるとの関連性 … ?



(6) 今、被爆者として言い残したいことについてお聞きします。

- 1) 戦争と原爆を経験し、70年間に生きてきて、被爆者として言い残したいことは何ですか。自由に書いてください。

【回答から読み取れること】

- ・ 言い残したいことの最大公約数：

こんなことは二度とくり返してはならない、という思い。そのためには、原爆・核兵器はなくさなければいけないし、戦争をしないことが最大の抑止力であるということ。

- ・ 国策により「被爆者」にさせられた人たちの次代の人々に送る心からの遺言

2) すでに亡くなった被爆者はその思いを今語るできません。あなたの家族や友人、先輩などが話したことや行動したことで次世代に伝え残したいことがあれば、代わりに書いてください。

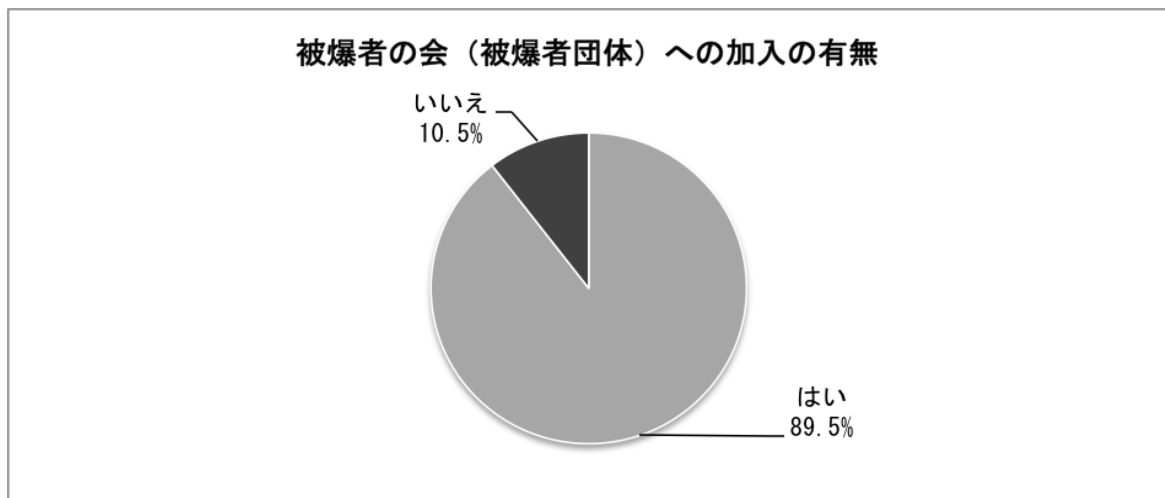
【回答から読み取れること】

- ・70年経てもなお心に刻まれたさまざまな言葉や行動
  - …家族の死のありさま、訳も分からぬまま瞬時に亡くなった者、急性症状に苦しみながらの死、家族を失ったことによる戦後の生活苦や助けられなかった責めを負いつづけた末の死
  - ／生き残ったものの責務　／　軍国主義教育への怒り
  - ／被爆者運動の歴史を伝えること

(7) 被爆者の会（被爆者団体）についてお聞きします。何らかの被爆者の会（被爆者団体）に入っていますか？→「1. はい」と回答された方に、さらにお聞きします。会（団体）に入って良かったと思うことや会に希望していることなどあれば、自由に書いてください。

【回答から読み取れること】

- ・被爆者にとっての会や組織、運動の果たしてきた役割や意義
- ・被爆者運動の歴史を伝える上で重要な役割をもっていること





### Ⅲ 意見交換

(メモ)